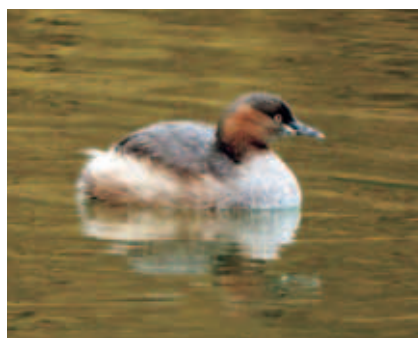




教室のご案内

バードウォッチング(自由参加)

12月22日、令和7年1月26日(日)

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤^{えんてい}

◆12月29日(日)～令和7年1月3日(金)は休園します。

冷たい風が吹き抜ける頃、陶史の森で一番大きい池、林泉の池で野鳥を観察していると、湖面に小さく丸っこい鳥がポッカリ浮かんできました。こちらに気づくとアツという間に潜ってしまい、しばらくして、かなり離れた水面に再びポッカリと浮かび上がってきました。潜水名手の野鳥「カイツブリ」です。

名前は、櫂^{かい}のような後ろ足で水をかいて「ツブリッ」と音を立て水に潜ることに由来しているという説や、「ツブリ」には、「小さい」や「丸っこい」という意味があり、その可愛らしい見た目に由来しているという説があります。体の大きさは、25cmくらいです。とても警戒心が強く、人が近づくとすぐに水に潜り、かなり離れたところで水面に出てきます。めったに歩かず、主に水上で生活しています。15～30秒ほど潜水可能で、魚や貝、ザリガニ、大きな水生昆虫などを食べます。

陶史の森では、カップルらしき2羽が見られます。うまくいくと、かわいい雛も見られるかもしれません。彼らを驚かさないうつ、そつと見守りたいですね。

潜水の名手 ーカイツブリー

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

博物館の仕事の1つに、資料のデータベース化があります。今回は、その作業中に発見した陶片をご紹介します。この陶片は、元屋敷窯の北側の「元屋敷跡」と呼ばれる場所です。元屋敷窯の後に操業した窯ヶ根窯で17世紀初めに作られたものと考えられます。非常に鉄分の多い土を使用し、「象嵌^{ぞうがん}」と呼ばれる技法で、表面に白い線で文様を描いています。では、これはいったい何を描いたのでしょうか。皆さんは何に見えますか。



ナスカの地上絵(イラスト)

ナスカの地上絵でした。あまりに珍しい文様だったので、本物がどうか疑ったほどでした。ナスカの地上絵は、2000年から3000年前にペルーの地で描かれたものです。ちなみに、この陶片と同様なものが過去にこの地を発掘調査した時にも出土しているため、複数作られた量産品だった可能性があります。この陶片ひとつとっても、いろいろなことが想像できます。陶工がどんな思いでこの製品を作っていたかを思いはせながら、文様の意味を考えてみてはいかがでしょうか。



織部鉢(江戸時代初頭)

第8回 まるでナスカの地上絵！珍しい織部の文様